

公益社団法人 2027 年国際園芸博覧会協会

第 9 回（定時）社員総会

次第

1 議決事項

- 第 1 号議案 理事の再任について P 3
- 第 2 号議案 2023 年度決算について P 5
 - 資料 1 2023 年度財務諸表等（案） P 7
 - 資料 2 監査報告 P15

2 報告事項

- 第 1 号報告 2023 年度事業報告について P17
 - 資料 3 2023 年度事業報告書 P19
- 第 2 号報告 2024 年度事業計画及び予算について P33
 - 資料 4 2024 年度 事業計画書 P35
 - 資料 5 2024 年度 正味財産増減予算書 P39
 - 資料 6 2024 年度 資金調達及び設備投資の見込みについて . . . P41

3 その他

公益社団法人 2027 年国際園芸博覧会協会
第 9 回（定時）社員総会
議案書

議決事項 第1号議案

理事の再任について

定款第24条第1項の規定により、理事の任期は2年以内と定められているところ、2024年度において任期が満了する理事の再任について、定款第21条第1項及び第24条第1項の規定により、次のとおり提案します。

理事（氏名 五十音順）

草野 満代（再任）	フリーアナウンサー
河村 正人（再任）	事務総長
佐藤 速水（再任）	事務次長
サヘル・ローズ（再任）	俳優
田代 桂子（再任）	公益社団法人 経済同友会 副代表幹事 大和証券グループ本社 取締役 兼 執行役副社長
田中 里沙（再任）	学校法人 先端教育機構 事業構想大学院大学 学長

【参考条文】

○公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会 定款

第21条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。

第24条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとし、再任を妨げない。

議決事項 第2号議案

2023年度決算について

定款第42条第2項の規定により、2023年度決算について、資料1のとおり提案します。
なお、監事からは、資料2のとおり監査報告を受領しています。

【参考条文】

○公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会 定款

第42条 協会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、代表理事が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時社員総会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

【資料】

- ・ 資料1 2023年度財務諸表等（案）
- ・ 資料2 監査報告

2023 年度財務諸表等

(2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

(案)

公益社団法人 2027 年国際園芸博覧会協会

目 次

貸借対照表	1
正味財産増減計算書	2
財務諸表に対する注記	4
附属明細書	5
財産目録	6

貸借対照表

(令和6年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
預金	1,767,175,016	1,157,772,177	609,402,839
未収金	139,237,028	0	139,237,028
前払金	2,500,000	0	2,500,000
立替金	5,522,791	2,196,988	3,325,803
前払費用	6,087,884	4,539,169	1,548,715
仮払金	0	29,422	△ 29,422
流動資産合計	1,920,522,719	1,164,537,756	755,984,963
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
什器備品	1,337,250	1,487,250	△ 150,000
建設仮勘定	1,020,529,852	171,787,000	848,742,852
特定資産合計	1,021,867,102	173,274,250	848,592,852
(3) その他固定資産			
建物附属設備	23,625,902	17,695,229	5,930,673
什器備品	10,809,176	11,740,159	△ 930,983
商標権	1,703,966	0	1,703,966
商標権仮勘定	3,775,015	7,052,878	△ 3,277,863
敷金	21,065,700	17,130,414	3,935,286
その他固定資産合計	60,979,759	53,618,680	7,361,079
固定資産合計	1,082,846,861	226,892,930	855,953,931
資産合計	3,003,369,580	1,391,430,686	1,611,938,894
II 負債の部			
1. 流動負債			
短期借入金	2,510,000,000	1,285,000,000	1,225,000,000
未払金	1,628,890,696	1,027,804,585	601,086,111
預り金	777,927	417,739	360,188
流動負債合計	4,139,668,623	2,313,222,324	1,826,446,299
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	4,139,668,623	2,313,222,324	1,826,446,299
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
国庫補助金	340,176,284	57,262,000	282,914,284
地方公共団体補助金	340,176,615	57,262,331	282,914,284
寄附金	284,251,534	1,487,250	282,764,284
指定正味財産合計	964,604,433	116,011,581	848,592,852
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(964,604,433)	(116,011,581)	(848,592,852)
2. 一般正味財産			
△ 2,100,903,476	△ 1,037,803,219	△ 1,063,100,257	
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(57,262,669)	(57,262,669)	(0)
正味財産合計	△ 1,136,299,043	△ 921,791,638	△ 214,507,405
負債及び正味財産合計	3,003,369,580	1,391,430,686	1,611,938,894

(注) 前年度の欄の数値は、令和4年12月20日から令和5年3月31日迄の決算額を計上している。

正味財産増減計算書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取補助金等	183,501,374	119,597,580	63,903,794
受取補助金等振替額	183,501,374	119,597,580	63,903,794
受取寄附金	165,655,716	1,012,750	164,642,966
受取寄附金振替額	165,655,716	1,012,750	164,642,966
雑収益	232,461	214,487	17,974
雑収益	232,461	214,487	17,974
経常収益計	349,389,551	120,824,817	228,564,734
(2) 経常費用			
事業費	1,222,033,375	681,553,336	540,480,039
役員報酬	42,194,729	14,040,000	28,154,729
給料手当	160,931,789	16,323,998	144,607,791
臨時雇賃金	5,091,745	984,557	4,107,188
福利厚生費	84,550,325	19,051,475	65,498,850
研修費	0	3,500	△ 3,500
会議費	223,874	80,714	143,160
旅費交通費	23,353,992	2,249,866	21,104,126
通信運搬費	765,367	564,798	200,569
備品消費費	1,457,956	9,804,250	△ 8,346,294
印刷製本費	2,775,832	169,063	2,606,769
光熱水料費	8,101,532	3,378,250	4,723,282
委託費	743,146,585	600,168,517	142,978,068
賃借料	44,091,279	5,141,031	38,950,248
租税公課	2,528,500	785,513	1,742,987
支払報酬	59,525,438	8,757,159	50,768,279
支払手数料	34,035,057	37,895	33,997,162
広告宣伝費	8,825,438	0	8,825,438
減価償却費	239,682	12,750	226,932
雑費	194,255	0	194,255
管理費	190,456,433	136,855,399	53,601,034
役員報酬	5,743,557	1,880,000	3,863,557
給料手当	41,490,216	3,895,731	37,594,485
臨時雇賃金	23,633,056	6,242,028	17,391,028
福利厚生費	26,417,352	6,275,363	20,141,989
会議費	16,987	3,968	13,019
旅費交通費	1,486,607	168,526	1,318,081
通信運搬費	564,401	266,762	297,639
備品消費費	14,915,209	3,474,085	11,441,124
修繕費	2,441,612	0	2,441,612
印刷製本費	38,298	59,164	△ 20,866
光熱水料費	2,558,368	1,073,661	1,484,707
委託費	41,983,752	108,693,626	△ 66,709,874
賃借料	16,040,193	1,594,722	14,445,471
保険料	151,840	120,390	31,450
租税公課	801,014	189,063	611,951
支払報酬	4,402,464	1,689,545	2,712,919
支払手数料	363,495	100,650	262,845
支払利息	3,446,296	217,307	3,228,989
減価償却費	3,382,330	801,072	2,581,258
雑費	579,386	109,736	469,650
経常費用計	1,412,489,808	818,408,735	594,081,073
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,063,100,257	△ 697,583,918	△ 365,516,339
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,063,100,257	△ 697,583,918	△ 365,516,339

科 目	当年度	前年度	増 減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,063,100,257	△ 697,583,918	△ 365,516,339
一般正味財産期首残高	△ 1,037,803,219	△ 340,219,301	△ 697,583,918
一般正味財産期末残高	△ 2,100,903,476	△ 1,037,803,219	△ 1,063,100,257
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	749,329,942	234,121,911	515,208,031
受取国庫補助金	374,665,925	117,060,000	257,605,925
受取地方公共団体補助金	374,664,017	117,061,911	257,602,106
受取寄附金	448,420,000	2,500,000	445,920,000
受取寄附金	448,420,000	2,500,000	445,920,000
一般正味財産への振替額	△ 349,157,090	△ 120,610,330	△ 228,546,760
一般正味財産への振替額	△ 349,157,090	△ 120,610,330	△ 228,546,760
当期指定正味財産増減額	848,592,852	116,011,581	732,581,271
指定正味財産期首残高	116,011,581	0	116,011,581
指定正味財産期末残高	964,604,433	116,011,581	848,592,852
Ⅲ 正味財産期末残高	△ 1,136,299,043	△ 921,791,638	△ 214,507,405

(注) 前年度の欄の数値は、令和4年12月20日から令和5年3月31日迄の決算額を計上している。

財 務 諸 表 に 対 す る 注 記

1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却の方法
 有形固定資産 建物附属設備、什器備品…定額法
 無形固定資産 商標権…定額法
- (2) 消費税等の会計処理
 消費税等の会計処理は、税込方式です。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
什器備品	1,487,250	0	150,000	1,337,250
建設仮勘定	171,787,000	848,742,852	0	1,020,529,852
合 計	173,274,250	848,742,852	150,000	1,021,867,102

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	当期末残高	〔うち指定正味財産 からの充当額〕	〔うち一般正味財産 からの充当額〕	〔うち負債に対応 する額〕
特定資産				
什器備品	1,337,250	(1,337,250)	(0)	(0)
建設仮勘定	1,020,529,852	(963,267,183)	(57,262,669)	(0)
合 計	1,021,867,102	964,604,433	57,262,669	0

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	25,100,823	1,474,921	23,625,902
什器備品	16,186,624	4,040,198	12,146,426
商標権	1,793,648	89,682	1,703,966
合 計	43,081,095	5,604,801	37,476,294

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりです。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
(受取補助金等) 2027年国際園芸博覧会 事業費補助金	横浜市	45,809,865	299,731,214	73,399,787	272,141,292	指定正味財産
2027年国際園芸博覧会 事業費補助金	神奈川県	11,452,466	74,932,803	18,349,946	68,035,323	指定正味財産
2027年国際園芸博覧会 事業費補助金	国土交通省	28,631,000	187,332,962	45,875,820	170,088,142	指定正味財産
2027年国際園芸博覧会 事業費補助金	農林水産省	28,631,000	187,332,963	45,875,821	170,088,142	指定正味財産
合 計		114,524,331	749,329,942	183,501,374	680,352,899	

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
補助対象経費計上による受取補助金等振替額	183,501,374
資金使途対象経費計上による受取寄附金振替額	165,505,716
減価償却費計上による受取寄附金振替額	150,000
合 計	349,157,090

財 産 目 録

(令和6年3月31日現在)

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等		使用目的等	金 額
(流動資産)	預金	普通預金 横浜銀行 横浜市庁支店		運転資金として	1,767,175,016
	未収金	横浜市他		地方創生応援税制寄附金に係る負担金他	139,237,028
	前払金	(株)ラッキースター		2024年度業務委託料	2,500,000
	立替金	国		社会保険料	5,522,791
	前払費用	松村(株) 建通新聞社他		4月分事務所賃貸料、清掃料 次年度年間購読料	5,870,084 217,800
流動資産合計					1,920,522,719
(固定資産)					
特定資産	什器備品	カウントダウンボード		公益目的保有財産であり、2027年国際園芸博覧会の準備及び開催運営に関する事業に供している	1,337,250
	建設仮勘定	博覧会会場設計料他		公益目的保有財産であり、完成後公益目的事業に使用する国際園芸博覧会会場の設計費用等	1,020,529,852
その他 固定資産	建物附属設備	パーティション工事他		管理の用に供している	23,625,902
	什器備品	カラー複合機他		管理の用に供している	10,809,176
	商標権	国際園芸博覧会公式ロゴ マーク		公益目的保有財産である2027年国際園芸博覧会 公式ロゴマーク	1,703,966
	商標権仮勘定	国際園芸博覧会公式マス コットキャラクター		公益目的保有財産である2027年国際園芸博覧会 公式マスコットキャラクター登録未了分	3,775,015
	敷金	横浜市中区住吉町1-13		事務所賃貸契約による敷金	21,065,700
固定資産合計					1,082,846,861
資産合計					3,003,369,580
(流動負債)					
	短期借入金	横浜銀行 横浜市庁支店		運転資金のための借入	2,510,000,000
	未払金	横浜市他		労務委託費、給料手当、備用品費、支払報酬等	1,628,890,696
	預り金	職員他		社会保険料他	777,927
流動負債合計					4,139,668,623
(固定負債)					
固定負債合計					0
負債合計					4,139,668,623
正味財産					△ 1,136,299,043

2024 年 5 月 24 日

監査報告

公益社団法人 2027 年国際園芸博覧会協会

代表理事 十 倉 雅 和 殿

公益社団法人 2027 年国際園芸博覧会協会

監事 二 川 裕 之



2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの事業年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めると共に、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁文書等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

以上

2024年 5 月 24 日

監査報告

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

代表理事 十 倉 雅 和 殿

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

監事 太 田 眞 晴



2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めると共に、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁文書等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

以上

報告事項 第1号報告

2023年度事業報告について

定款第42条第2項の規定により2023年度事業報告について、資料3のとおり報告します。

なお、監事からは、資料2のとおり監査報告を受領しています。

【資料】

- ・ 資料3 2023年度事業報告書

2 0 2 3 年度事業報告書

自 2023 年 4 月 1 日
至 2024 年 3 月 31 日

公益社団法人 2 0 2 7 年国際園芸博覧会協会

公益社団法人 2027 年国際園芸博覧会協会

2023 年度事業報告書

(2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

1 博覧会の開催に向けた事業の実施

(1) 業務領域別の計画策定・推進

2027 年国際園芸博覧会（以下「博覧会」という。）の開催準備を着実に推進するため、基本計画を踏まえた業務領域別の計画を策定・推進するとともに、参加招請や植物調達に関する調整等を進めた。

ア 展示・出展計画

- ・テーマ館展示及び展示園に関する基本設計を行った。
- ・「GREEN×EXPO 2027 共創キックオフ・ミーティング」を開催し、出展・協賛等に関する参加メニューを公表するとともに、企業・団体等へ参画を呼びかけた。

(9 月)

- ・「第 2 回 GREEN×EXPO 2027 花と緑の共創推進会議」を開催し、花き園芸・造園に関連する団体と、博覧会開催に向けた機運醸成、出展方法等に関する案内や意見交換を行った。(10 月)
- ・「GREEN×EXPO 2027 共創フォーラム」を開催した。あわせて、「花・緑出展」「Village 出展」に関する公募要領を公表し、出展に向けた手続を開始した。(3 月)
- ・日本政府と連携し、駐日大使館向け説明会・現地視察会を実施するなど、外国政府・国際機関等に対して参加招請を進めた。

イ 行催事計画

- ・公式行事や主催者・参加者催事等に関する行催事基本計画を策定した。

ウ 会場計画

- ・基盤施設など会場整備の実施設計を行った。
- ・屋内展示施設（テーマ館及び園芸文化館）、仮設のサービス施設や管理運営施設等の基本設計を行った。

エ 植物監理計画

- ・植物監理・調達・維持管理に関する検討の深度化を図った。
- ・植物調達パートナーを公募し、認定を行った。

オ 運営計画

- ・来場者サービスや会場内警備等に関する会場運営・会場管理基本計画を検討した。

カ 輸送計画

- ・関係機関の委員で構成する輸送対策協議会や有識者との技術検討会での議

論を踏まえ、来場者輸送基本計画を策定した。

キ コミュニケーション計画

- ・博覧会開幕までを視野に入れた広報計画を策定し、認知度向上や企業参加促進に取り組んだ。

ク サステナビリティ戦略・実施計画

- ・持続可能性有識者委員会での審議等を踏まえ、サステナビリティ戦略・実施計画、持続可能性に配慮した調達コードを策定した。

(2) 環境影響評価手続の実施

環境影響評価手続を横浜市の条例に基づき計画的に実施した。

ア 環境影響評価方法書の修正手続き完了（7月）

イ 環境影響評価準備書の公告・縦覧（10～12月）及び説明会の開催（10月）

ウ 環境影響評価書（案）の作成

(3) 国際機関との調整

国際園芸家協会（以下「AIPH」という。）及び博覧会国際事務局（以下「BIE」という。）とA1クラスの国際園芸博覧会開催に必要な連絡・調整を行った。

ア AIPH及びBIEの要件等に基づく特別規則や計画等の検討

- ・特別規則の第1号（テーマ）及び第2号（参加条件）についてBIE総会において承認された。（6月）
- ・特別規則の第1号及び第2号に関わる参加ガイドラインを策定した。（3月）

イ AIPH及びBIEとの連絡・調整

- ・AIPHの視察を受け入れ、準備状況について報告した。

2023年7月11日 神奈川県・横浜市 表敬訪問、上瀬谷現地視察

7月12日 農水省・国交省 表敬訪問、博覧会協会報告・質疑応答等

- ・AIPH博覧会委員会及びBIE総会等に参加し、進捗報告を行った。

2023年5月10日 BIE執行委員会（フランス・パリ）

5月11日 BIE情報コミュニケーション委員会（フランス・パリ）

5月12日 BIE規則委員会（フランス・パリ）

6月20日 第172回BIE総会（フランス・パリ）

9月18日 AIPH博覧会委員会（韓国・順天市）

10月13日 BIE執行委員会（フランス・パリ）

10月19日 BIE情報コミュニケーション委員会（フランス・パリ）

11月28日 第173回BIE総会（フランス・パリ）

2024年3月4日 AIPH博覧会委員会（カタール・ドーハ）

2 博覧会の機運醸成に関する事業の実施

博覧会の認知向上を図るため、公式ロゴマーク等を活用し、広報 PR・機運醸成活動を実施した。

ア 国内外のイベント等での情報発信

- ・俳優 芦田愛菜さんの公式アンバサダー就任発表を行った。（9月）
- ・「GREEN×EXPO 2027 共創キックオフ・ミーティング」を開催し、出展・協賛等に関する参加メニューを公表した。採録記事を神奈川新聞に掲載した。（9月）
- ・「GREEN×EXPO 2027 開催3年前記者発表会」にて公式マスコットキャラクターデザイン発表・名前募集を行うとともに、「GREEN×EXPO 2027 共創フォーラム」を開催した。採録記事を日本経済新聞に掲載した。（3月）
- ・カタールで開催された2023年ドーハ国際園芸博覧会（10月～3月）の日本国政府出展において、博覧会をPRする展示を行った。また、1月14日に開催されたジャパンデーに合わせて、博覧会をPRする展示（花壇・パネル・映像等）を横浜市と連携して集中的に実施したほか、レセプションにおいて博覧会をPRするプレゼンテーションを実施した。閉会式ではAIPHの開催旗が次期開催国である日本に引渡された。
- ・「グリーンインフラ産業展」や当博覧会開催予定地で開催された「FLOWER Fes 2024」などで本博覧会のブースを設け、多くの来場者に対してPRを行った。
- ・博覧会の認知度向上や機運醸成を目的として、東京都、神奈川県を中心に、各種イベントに出展した。

【2023年度の主な出展イベント】

イベント名	開催期間	開催場所
G7 長野県軽井沢外務大臣会合	4月16日～18日	長野県軽井沢町
G7 宮崎農業大臣会合	4月22日～23日	宮崎県宮崎市
第40回全国都市緑化仙台フェア	4月26日～6月18日	宮城県仙台市
G7 広島サミット	5月19日～21日	広島県広島市
G7 香川・高松都市大臣会合	7月7日～9日	香川県高松市
サマーコンファレンス2023	7月22日～23日	横浜市（臨港パーク）
ベトナムフェスタin神奈川2023	9月9日～10日	横浜市（日本大通り）
フラワートライアルジャパン2023 秋	9月26日～28日	長野県茅野市他
都市緑化キャンペーン2023	10月6日	東京都千代田区
ワールドフェスタ・ヨコハマ2023	10月7日～8日	横浜市（山下公園）
第21回日比谷公園ガーデニングショー	10月21日～25日	東京都千代田区（日比谷公園）
新横浜パフォーマンス2023	10月28日～29日	横浜市（新横浜）
第52回横浜花き展覧会	12月5日～7日	横浜市（市庁舎）
グリーンインフラ産業展2024	2月20日～22日	東京都中央区
Flower Fes 2024	3月16日～17日	横浜市（旧上瀬谷通信施設）

イ 公式ホームページ等での国内外への情報発信

- ・12月に公式Instagram、Facebookを開設し、公式Xと併せて、最新情報などの発信を、それぞれの特性を生かして幅広い世代へ行った。
- ・花き園芸・造園関係団体等の機関誌・会報誌への寄稿や情報提供を通じ、関係団体の皆様とともに本博覧会の成功に向けた機運醸成活動を行った。

【機関誌・会報誌名等】【団体名】（五十音順）

機関紙・会報誌名等	発行元
「園芸文化」	公益社団法人 園芸文化協会
「グリーン情報」	株式会社グリーン情報
「建設物価」8月号	一般財団法人 建設物価調査会
「ISUニュースレター」	国際多肉植物協会
「I. S. I. Jニュースレター3月号」	国際多肉植物協会
「JFTD通信」「花キューピット通信」	一般社団法人 JFTD
「タウンニュース」	株式会社タウンニュース社
「千葉の花」	一般社団法人 千葉造園緑化協会
「Discover Japan 相鉄線に乗って みつける！横浜中央部」	株式会社ディスカバー・ジャパン
「都市緑化技術」	公益財団法人 都市緑化機構
「都市のオアシスさんぽNO.16」	公益財団法人 都市緑化機構
「JAPAN HORTICULTURAL THERAPY SOCIETY NEWS LETTER GREEN STEP NO98」	NPO法人 日本園芸療法研修会事務局
「GA コミュニケーション」	公益社団法人 日本家庭園芸普及協会
「月刊経団連2月号」	一般社団法人 日本経済団体連合会
「公園緑地」	一般社団法人 日本公園緑地協会
「種苗界」	一般社団法人 日本種苗協会
「造園連新聞1364号」	一般社団法人 日本造園組合連合会
「日造協ニュース」	一般社団法人 日本造園建設業協会
「造園修景」	一般財団法人 日本造園修景協会
「花の友」	公益財団法人 日本花の会
「JFMAニュース」	一般社団法人 日本フローラルマーケティング協会
「グリーン・エージ」	一般財団法人 日本緑化センター
「MUSIC CITY YOKOHAMA 2023-2024」	ぴあ株式会社
「FAJトレードフェア2023秋 商品カタログ」	株式会社 フラワーオークションジャパン
「花」	一般社団法人 フラワーソワエティ
「ランドスケープデザイン」	(株)マルモ出版
「マイガーデン」	(株)マルモ出版
「第60回花壇展記念誌」	一般社団法人 横浜市造園協会
「横造協だより」	一般社団法人 横浜市造園協会
「みどり」	公益財団法人 横浜市緑の協会
「横浜商工季報」	横浜商工会議所

ウ 広報ツール・活動計画の検討・展開 等

- ・公式ロゴマークを決定し、公式ロゴマーク等を活用した広報 PR・機運醸成活動を行った。（４月～）
- ・公式アンバサダーに俳優 芦田愛菜さんが就任した。（９月）
- ・公式マスコットキャラクターの発表、名前の募集開始等を行った。（３月）
- ・公式クリエイター 蜷川実花さんによる新たなキービジュアルを活用したポスター展開やチラシ配布等を開始した。（３月～）

３ 事務局体制の整備・強化と健全な財務運営

（１） 事務局体制の整備・強化

国・経済界・自治体から多様な人材を確保し、事務局体制を強化した。

- ア 事務局体制の整備・強化、業務に応じた人材の確保
- イ 効率的・効果的な事務局体制のあり方等の検討 等

（２） 効果的・効率的な予算の管理・執行

円滑な開催準備と健全な財務運営の両立を図るため、効果的・効率的な収入確保・支出管理に取り組んだ。

- ア 基本計画で定めた資金計画に基づく資金調達・予算管理
- イ 予算執行段階における事業実施方法の検証、コスト削減
- ウ 入札・契約における適正な競争環境や適切な履行の確保 等

（３） 財務基盤の強化に向けた資金調達

協会の財務基盤を強化するため、資金調達活動に取り組んだ。

- ア 寄附金の募集・拡充に向けた取組
- イ 補助金等の各種資金の確保に向けた調整 等

（４） ガバナンス機能の強化

コンプライアンスの推進を図るため、ガバナンス機能を強化した。

- ア 監査課を設置
- イ コンプライアンス委員として外部有識者を委嘱
- ウ 業務の準拠性の確認及び業務の効率化を図るため内部監査を実施

4 社員総会・理事会の開催

(1) 第10回理事会(2023年6月13日)

ア 開催場所

東京商工会議所 渋沢ホール（東京都千代田区丸の内3-2-2）
（Web会議システムの併用による会議）

イ 決議事項

- ・2022年度事業報告及びその附属明細書について
- ・2022年度計算書類及びその附属明細書並びに財産目録について
- ・財務委員会の設置及び委員の選任について
- ・第7回（定時）社員総会の開催について

ウ 報告事項

- ・事務次長及び事務次長補の辞任について

エ 出席等

議決権のある総理事数21名、出席理事数16名、出席監事数2名

(2) 第7回（定時）社員総会(2023年6月13日)

ア 開催場所

東京商工会議所 渋沢ホール（東京都千代田区丸の内3-2-2）
（Web会議システムの併用による会議）

イ 決議事項

- ・理事の選任について
- ・常勤理事の報酬の額について
- ・2022年度計算書類及び財産目録について

ウ 報告事項

- ・2022年度事業報告について
- ・2023年度事業計画及び収支予算について

エ 出席等

全議決権数10団体、出席社員数10団体、出席理事数16名、
出席監事数2名

(3) 第11回理事会(2023年6月13日)

ア 開催場所

東京商工会議所 渋沢ホール（東京都千代田区丸の内3-2-2）
（Web会議システムの併用による会議）

イ 決議事項

- ・会長(代表理事)、副会長及び事務次長(業務執行理事)の選定について
- ・会長職を代行する事務総長及び事務次長の順序について
- ・事務次長の職務権限規程について
- ・理事の利益相反取引の承認について

ウ 報告事項

- ・代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について
- ・理事の利益相反取引の事後報告について
- ・博覧会協会のガバナンスについて
- ・輸送計画の検討状況について
- ・参加国招請について
- ・機運醸成について

エ 出席等

議決権のある総理事数 23 名、出席理事数 18 名、出席監事数 2 名

(4) 第 12 回理事会 (2023 年 6 月 23 日)

ア 開催方法

決議省略の方法による

イ 提案事項

- ・2027 年国際園芸博覧会寄附金募集基本方針について
- ・第 8 回 (臨時) 社員総会の決議の省略について

ウ 出席等

提案事項につき、理事 23 名の全員から書面により同意の意思表示を、監事 2 名の全員から書面により異議がないとの意思表示を得たため、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

(5) 第 8 回 (臨時) 社員総会 (2023 年 7 月 1 日)

ア 開催方法

決議省略の方法による

イ 提案事項

- ・理事の選任について
- ・役員の報酬等並びに費用に関する規程の改正について
- ・常勤理事の報酬の額について

ウ 出席等

提案事項につき、社員 10 団体の全てから書面により同意の意思表示を得たため、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなされた。

(6) 第 13 回理事会 (2023 年 7 月 1 日)

ア 開催方法

決議省略の方法による

イ 提案事項

- ・常勤理事の報酬の額について
- ・事務次長 (業務執行理事) の選定について
- ・会長職を代行する事務総長及び事務次長の順序について
- ・事務次長の職務権限規程の改正について

ウ 出席等

提案事項につき、理事 24 名の全員から書面により同意の意思表示を、監事 2

名の全員から書面により異議がないとの意思表示を得たため、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

(7) 第14回理事会(2023年11月13日)

ア 開催場所

経団連会館 4階 ダイアモンドルーム北
(東京都千代田区大手町 1-3-2)
(Web 会議システムの併用による会議)

イ 報告事項

- ・代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について
- ・理事の利益相反取引の事後報告について
- ・「GREEN×EXPO ラボ」について
- ・サステナビリティ関係計画等の方向性について
- ・来場者輸送基本計画の検討状況について
- ・GREEN×EXPO 2027 共創キックオフ・ミーティングについて
- ・広報・機運醸成について
- ・GREEN×EXPO 2027 会場予定地等の視察について

ウ 出席等

議決権のある総理事数 24 名、出席理事数 14 名、出席監事数 2 名

(8) 第15回理事会(2024年1月30日)

ア 開催方法

決議省略の方法による

イ 提案事項

- ・財務委員会の委員の選任について

ウ 出席等

提案事項につき、理事 24 名の全員から書面により同意の意思表示を、監事 2 名の全員から書面により異議がないとの意思表示を得たため、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

(9) 第16回理事会(2024年3月25日)

ア 開催方法

決議省略の方法による

イ 提案事項

- ・2024 年度 事業計画及び収支予算について
- ・常勤理事の報酬の額について
- ・理事の利益相反取引の承認について

ウ 報告事項

- ・財務委員会の開催について
- ・サステナビリティ戦略の策定等について
- ・来場者輸送基本計画の策定について

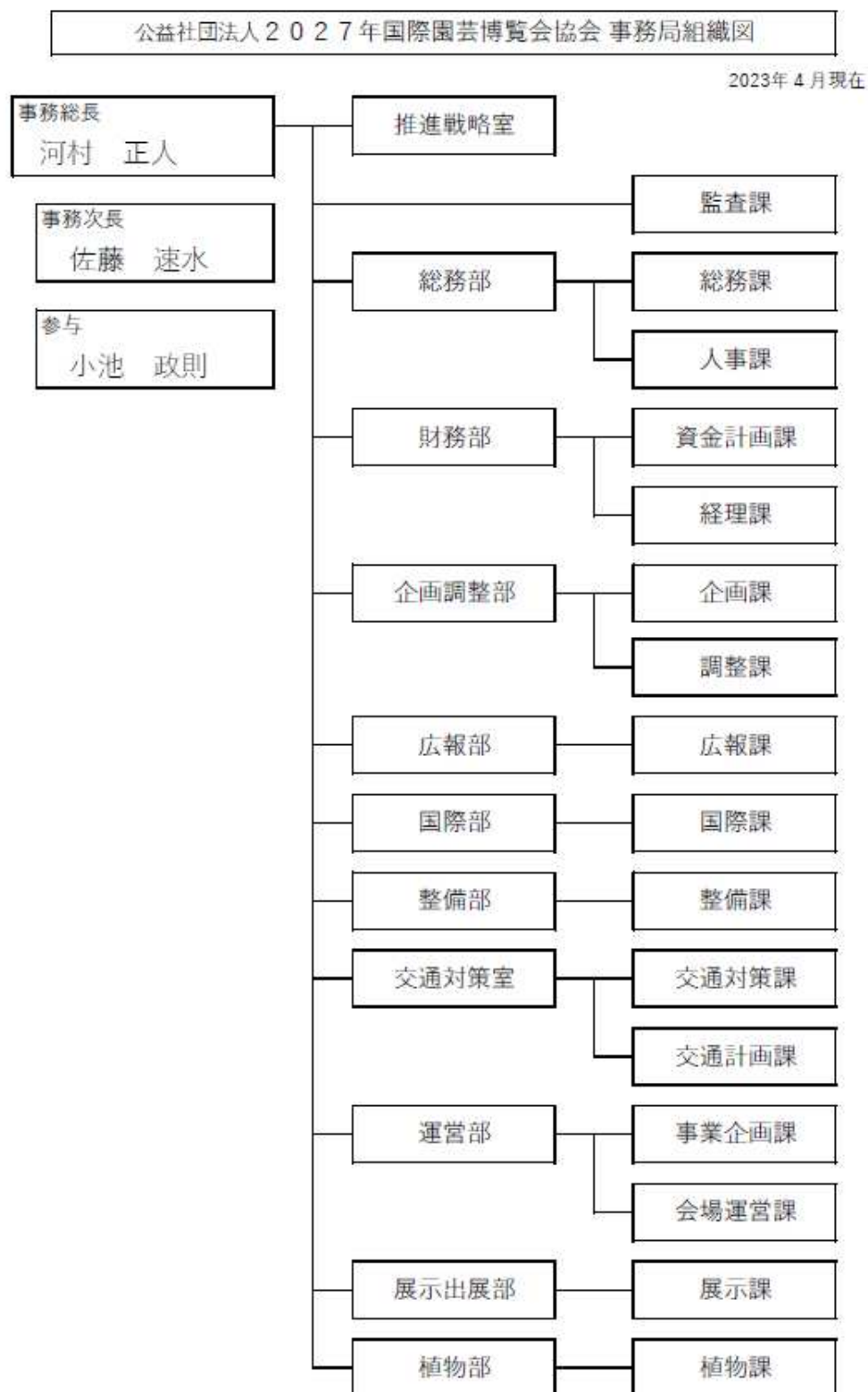
- ・会場整備にかかる工事等の発注見通しの公表について
- ・3年前イベントの開催について
- ・出展に関する公募要領の公表について
- ・広報・機運醸成の取組について

エ 出席等

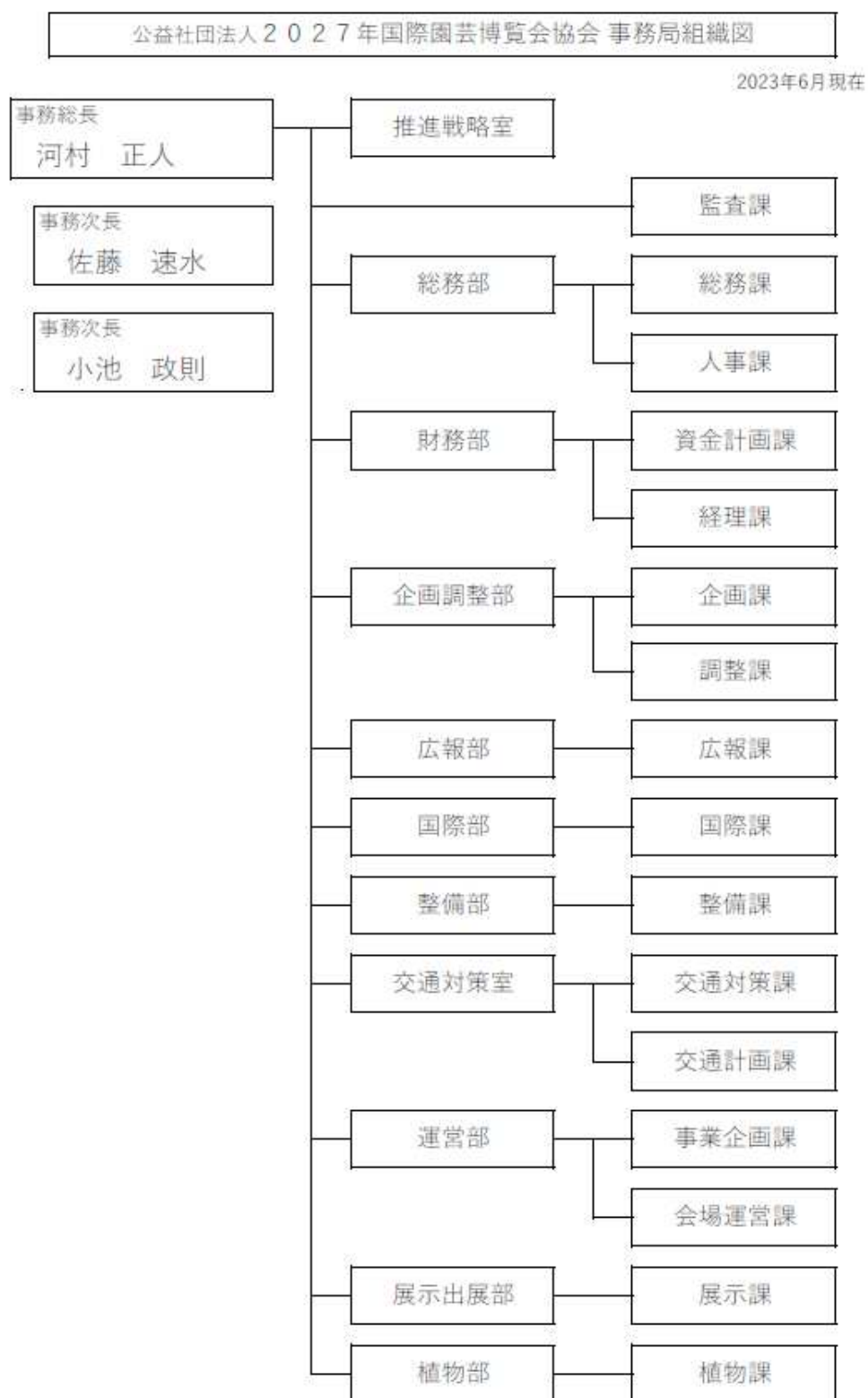
提案事項につき、理事 24 名の全員から書面により同意の意思表示を、監事 2 名の全員から書面により異議がないとの意思表示を得たため、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

5 事務局体制

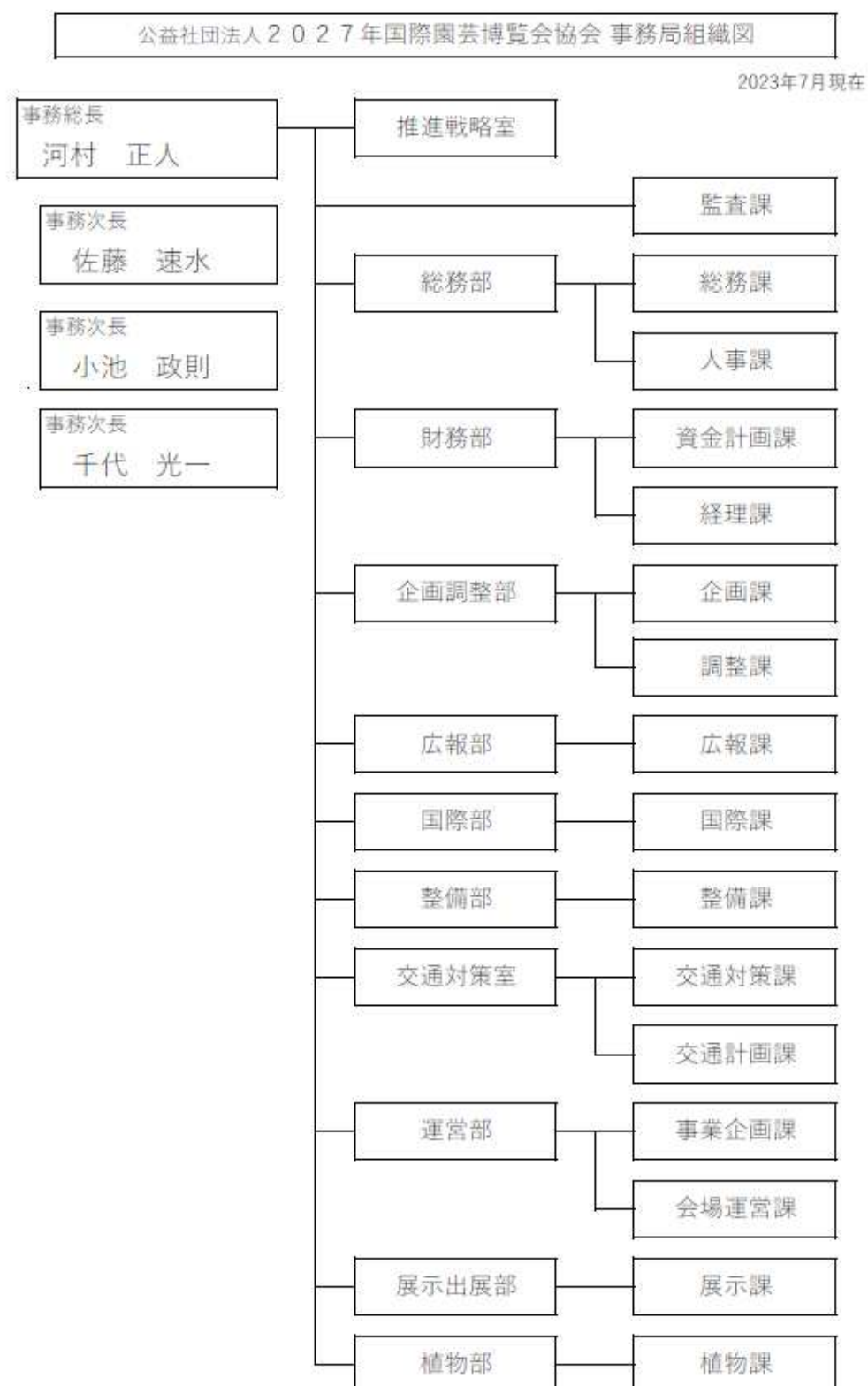
事務局組織図（2023 年 4 月時点）



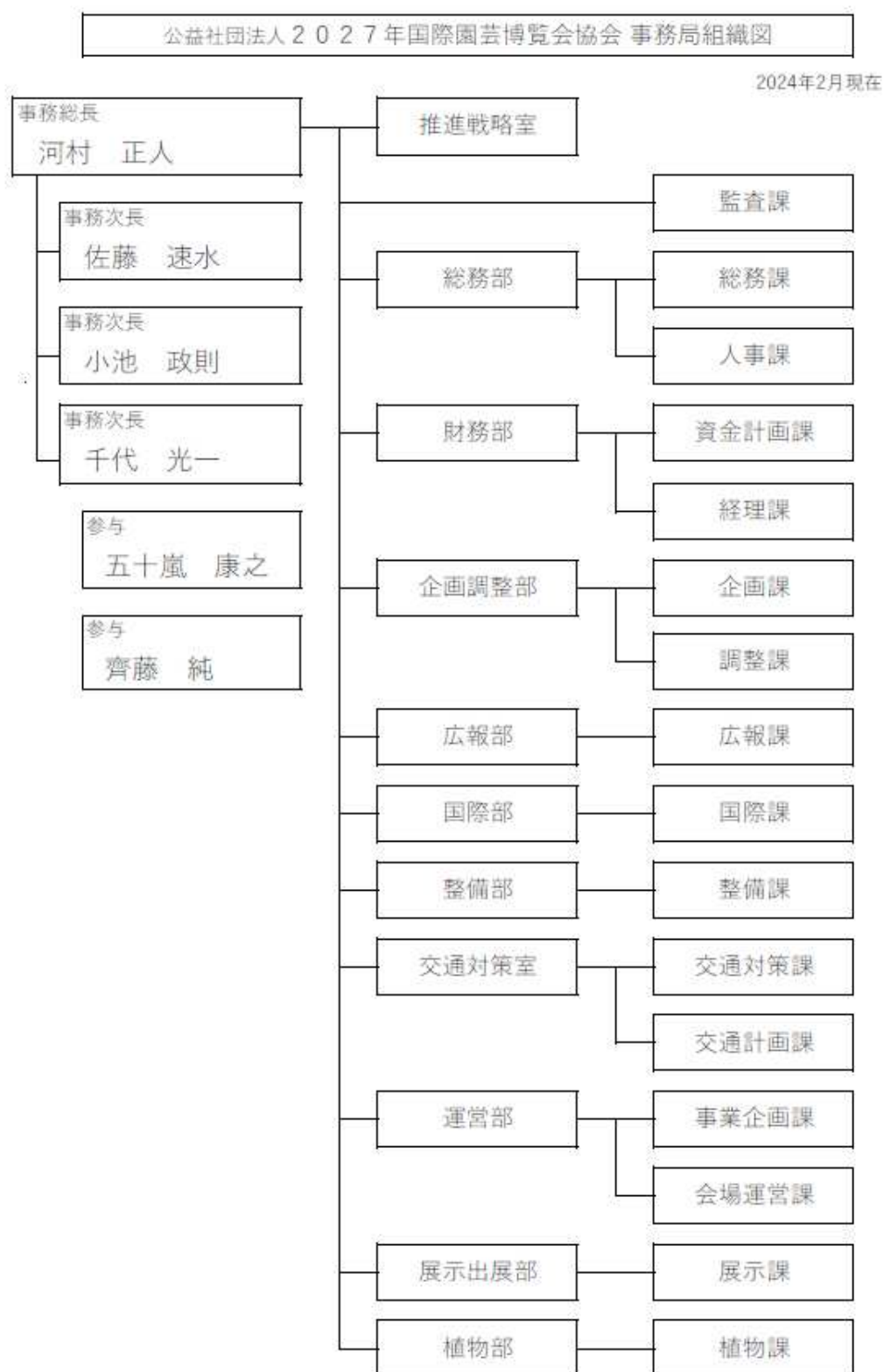
事務局組織図（2023 年 6 月時点）



事務局組織図（2023 年 7 月時点）



事務局組織図（2024 年 2 月時点）



報告事項 第2号報告

2024年度事業計画及び予算について

定款第41条第2項の規定により、2024年度の事業計画及び予算について、資料4から資料6のとおり報告します。

【参考条文】

○公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会 定款

第41条 協会の事業計画書及び収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度開始の日の前日までに、代表理事が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、直近に開催される社員総会に報告しなければならない。

【資料】

- ・ 資料4 2024年度 事業計画書
- ・ 資料5 2024年度 正味財産増減予算書
- ・ 資料6 2024年度 資金調達及び設備投資の見込みについて

公益社団法人 2027 年国際園芸博覧会協会

2024 年度 事業計画書

(2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで)

1 2024 年度の事業計画について

2024 年度は、2027 年国際園芸博覧会（以下「博覧会」という。）について、開催地周辺のみならず全国における認知の拡大を図り、市民や企業・団体等、様々な主体による共創への参画を促進する期間となります。

新たに制作した公式マスコットキャラクターや公式アンバサダー等を活用し、開幕 1000 日前イベントをはじめ、多様な主体と連携した各種イベントを開催・参加することで来場者への期待感や市民参加の機運を醸成します。

企業や団体等に対して、出展・協賛等の募集を行い、博覧会への参加を促します。また、外国政府・国際機関に対しては、引き続き参加招請を進め、参加契約締結に向けた手続や契約締結後の出展に向けたフォロー等を実施します。

博覧会会場予定地では、先行する横浜市による土地区画整理事業、公園整備事業に続き、当協会による会場整備工事に着手します。

事業の推進・検討にあたっては、2023 年度に策定したサステナビリティ戦略等に基づき実施するとともに、持続可能性に配慮した調達コードに基づき、環境負荷の低減など持続可能性に配慮した調達を進めます。

2 博覧会の開催に向けた事業の実施

I 認知拡大・機運醸成に関する事業の実施

(1) 多様なメディアを活用した取組

- ・公式マスコットキャラクターの愛称発表を行います。
- ・開幕 1000 日前イベントや開幕 2 年前イベントなどを実施します。
- ・交通広告や業界専門誌等各種メディアを活用した広報、公式ホームページ・公式 SNS 等での情報発信を行います。

(2) 多様な主体の参画による取組

- ・国内で開催される関連イベント等の機会を活用したプロモーションを行います。
- ・開催意義の理解促進や来場促進、ブランド価値の向上を図るため、統一的なデザイン（VI：ビジュアルアイデンティティ）の制定とそれにもとづく統一的な広報ツールの制作・展開を行います。

- ・公式ロゴマークや公式マスコットキャラクター等を活用したライセンス事業を展開します。
- ・ボランティアに関する募集・研修・活動等に関する計画を策定します。

II 各分野の事業の実施

(1) 公式参加者招請活動・支援及び国際園芸家協会（以下「AIPH」という。）・博覧会国際事務局（以下「BIE」という。）との調整

ア 外国政府・国際機関への参加招請活動

- ・政府・関係機関と連携しながら、外国政府・国際機関への参加招請を進めるとともに、参加契約締結に向けた手続等のフォローを行います。

イ 公式参加者（参加を表明した外国政府・国際機関）への支援

- ・公式参加者の出展準備等への支援を行うとともに、そのための体制整備を行います。
- ・途上国支援プログラムの構築に向けた検討を進めます。

ウ AIPH 及び BIE との調整

- ・博覧会の成功に向け、AIPH 及び BIE との連絡・調整を行います。
- ・特別規則等について、政府と連携し BIE 総会での承認等を得て策定していきます。

(2) 会場整備

- ・2023 年度に引き続き会場整備の実施設計を行うとともに、会場整備工事に着手します。
- ・屋内展示施設（テーマ館及び園芸文化館）、仮設のサービス施設や管理運営施設等の実施設計を行います。
- ・横浜市の条例に基づき、環境影響評価書の作成など環境影響評価手続を計画的に実施します。

(3) 植物監理

- ・植物監理・調達・維持管理に関する検討の深度化を図ります。
- ・植物調達パートナー等と連携し、植物の調達を進めます。

(4) 運営管理

- ・2025 年度以降の入場券販売に向けて、多様な販売チャネル構築や券種等の検討を行います。
- ・満足度の高い来場者サービスを提供するため、来場者サービス計画、会場衛生（感染症・環境）計画等の検討・策定を行います。
- ・会場を安全かつ円滑に運営し、来場者が安心・安全に過ごす環境を整えるため、警備基本計画の検討・策定を行います。
- ・会場内の快適性と美観を維持するため、会場内清掃・廃棄物管理基本計画の検討・策定を行います。

(5) 展示・出展

ア 主催者展示

- ・テーマ館展示及び園芸文化展示の実施設計を行います。
- ・Village やゾーンの中心的な展示として主催者が整備する展示園の実施設計を行います。

イ 一般参加者出展

- ・花・緑出展は、自治体や企業・団体等に対し公募を行い、出展に向けた手続等を進めます。
- ・Village 出展は、企業・団体に対し公募を行い、出展に向けた手続等を進めます。
- ・協賛やその他の参加に関するメニューの検討を行い、募集に向けた手続等を進めます。

ウ コンペティション

- ・AIPH 規則に則りコンペティション規則（案）を作成します。

（６） 行催事

- ・賑わい（祝祭感）の創出や多様な参加の促進のために、行催事実施計画の検討・策定を行います。
- ・魅力的な博覧会の実現のために、参加や協賛の勧奨等を行います。

（７） 輸送対策

- ・輸送の基本的な考え方を示した輸送基本計画をもとに、周辺道路における交通シミュレーションやシャトルバスの運行計画の策定など、具体的な実施計画の検討・調整を行います。

（８） 持続可能性に向けた取組

- ・サステナビリティ教育計画、サステナビリティコミュニケーション・エンゲージメント計画を策定します。

III 事務局体制の整備・強化と健全な財務運営

（１） 事務局体制の整備・強化

- ・国・経済界・自治体から多様な人材を確保し、事務局体制を強化します。
- ・効率的・効果的な事務局体制のあり方等を検討します。

（２） ガバナンス機能の強化

- ・継続的なコンプライアンスの推進に向け、外部の有識者を加えたコンプライアンス委員会を定期的に開催します。
- ・入札・契約における適正な競争環境や適切な履行の確保を図ります。

（３） 効果的・効率的な予算の管理・執行

- ・基本計画で定めた資金計画に基づく資金調達・予算管理を行います。
- ・予算執行段階における事業実施方法の検証、コスト削減を行います。

（４） 財務基盤の強化に向けた資金調達

- ・寄附金の募集・拡充に向けた取組を進めます。
- ・補助金等の各種資金の確保に向けた調整を図ります。

2024年度 正味財産増減予算書

資料 5

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位:千円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合計
I.一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
受取補助金等	37,290	0	37,290
受取補助金等振替額	37,290	0	37,290
受取寄附金	18,796	0	18,796
受取民間寄附金等振替額	18,796		18,796
経常収益計	56,086	0	56,086
(2)経常費用			
事業費	1,470,811		1,470,811
役員報酬	46,456		46,456
給料手当	252,048		252,048
臨時雇賃金	5,400		5,400
福利厚生費	116,638		116,638
旅費交通費	29,022		29,022
通信搬費	2,686		2,686
備品費	2,300		2,300
印刷製本費	8,270		8,270
光熱水料費	12,879		12,879
委託借料費	678,519		678,519
賃借料	97,264		97,264
支払報酬	95,459		95,459
広告宣伝費	95,000		95,000
負担金	27,720		27,720
減価償却費	150		150
雑費	1,000		1,000
管理費		237,071	237,071
役員報酬		6,872	6,872
給料手当		63,726	63,726
臨時雇賃金		28,962	28,962
福利厚生費		28,999	28,999
旅費交通費		1,779	1,779
通信搬費		430	430
備品費		1,958	1,958
光熱水料費		3,281	3,281
委託借料費		35,994	35,994
賃借料		30,664	30,664
租税公課		500	500
支払報酬		10,465	10,465
支払手数料		579	579
支払利息		18,560	18,560
減価償却費		3,330	3,330
雑費		972	972
経常費用計	1,470,811	237,071	1,707,882
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,414,725	△ 237,071	△ 1,651,796
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,414,725	△ 237,071	△ 1,651,796
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,414,725	△ 237,071	△ 1,651,796
一般正味財産期首残高			△ 1,037,803
一般正味財産期末残高			△ 2,689,599
II.指定正味財産増減の部			
受取補助金等	2,834,134	0	2,834,134
受取国庫補助金	1,417,068	0	1,417,068
受取地方公共団体補助金	1,417,066	0	1,417,066
受取寄附金	1,417,071	0	1,417,071
受取民間寄附金等	1,417,071	0	1,417,071
一般正味財産への振替額		0	
当期指定正味財産増減額	△ 56,086	0	△ 56,086
当期指定正味財産増減額	4,195,119	0	4,195,119
指定正味財産期首残高			116,011
指定正味財産期末残高			4,311,130
III.正味財産期末残高			1,621,531

資料 6

事業 年度	自	2024 年 4 月 1 日	法人名	公益社団法人
	至	2025 年 3 月 31 日		2027 年国際園芸博覧会協会

2024 年度 資金調達及び設備投資の見込みについて

(1) 資金調達の見込みについて

(単位: 千円)

借入の予定	あり	
借入先	金額	用途
横浜銀行	1,663,563	運転資金として

(2) 設備投資の見込みについて

(単位: 千円)

設備投資の見込み	あり	
設備投資の内容	支出予定額	資金調達方法
会場整備にかかる設計・工事等	4,195,269	受取補助金等
商標権	13,097	借入金
器具及び備品	2,000	借入金